



山梨県景気動向指数(DI)

平成28年9月分

景気の現状を示す**一致指数**は、「鉱工業生産指数(鉱工業)」や「県立美術館・富士山世界遺産センター来館者数」が引き続きプラスであったこと等から80.0%となり、4か月連続で50%を上回りました。

景気の先行きを示す**先行指数**は、2か月連続で50%を上回りました。

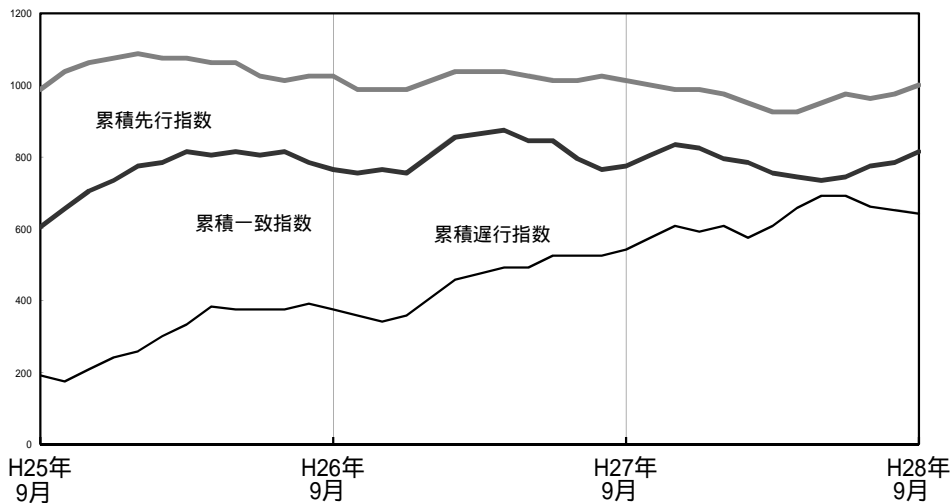
景気に遅れて動きを示す**遅行指数**は、3か月連続で50%を下回りました。

<過去1年間の指数の動き>

(単位%)

月	H27.9	10	11	12	H28.1	2	3	4	5	6	7	8	9
先行指数	37.5	37.5	37.5	50.0	37.5	25.0	25.0	50.0	75.0	75.0	37.5	62.5	75.0
一致指数	60.0	80.0	80.0	40.0	20.0	40.0	20.0	40.0	40.0	60.0	80.0	60.0	80.0
遅行指数	66.7	83.3	83.3	33.3	66.7	16.7	83.3	100.0	83.3	50.0	20.0	40.0	40.0

<累積指数の動き>



(注1) 累積指数グラフは、景気の局面や山・谷を視覚的にとらえることができます。ただし、グラフ上の山の大きさや高さは景気の強弱や水準とは無関係です。なお、累積指数は各月のDI指数を次式により累積したものです。

累積DI = 前月までの累積DI + (当月のDI - 50)

(注2) グラフを見やすくするため、先行指数は600、一致指数は300を加算しています。

(注3) グラフ中の山・谷は内閣府発表による全国の景気基準日付です。また、網かけ部分は、景気後退期を示しています。

山梨県 県民生活部 統計調査課

<問い合わせ先>

分析担当

電話 : 055-223-1344

FAX : 055-223-1347

E-Mail : toukei@pref.yamanashi.lg.jp

HP : http://www.pref.yamanashi.jp/toukei_2/

各系列の9月の変化方向

先行指数	75.0%	… 2か月連続で50%を上回りました。
一致指数	80.0%	… 4か月連続で50%を上回りました。
遅行指数	40.0%	… 3か月連続で50%を下回りました。

個別系列の動向

	プラスの系列	連続 月数	マイナスの系列	連続 月数
先行 系列	鉱工業在庫率指数(逆)*	2	新設住宅着工戸数[前]	2
	鉱工業生産指数(生産財)	2	新車登録・届出台数(乗用車・貨物車)	1
	新規求人数(新規学卒を除く全数)	1		
	東証業種別株価指数(電気機器)[前]	3		
	法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI (中小企業 全産業 翌期)	5		
	日経商品指数(42種)	1		
一 致 系 列	鉱工業生産指数(鉱工業)	2	百貨店・スーパー販売額[前]	2
	所定外労働時間指数(製造業30人以上)	4		
	有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	1		
	県立美術館・富士山世界遺産センター来館者	3		
遅 行 系 列	第3次産業活動指数(対事業所サービス業)	1	常用雇用指数(製造業30人以上)	4
	家計消費支出(二人以上の世帯)	2	有効求職者数(逆)*	2
			法人事業税(調定額)	1

(逆)*とは逆サイクルのことを示し、採用系列が景気の動きに対し反対の方向に動くことをいいます。

例)有効求職者数…求職者数が増加することはマイナス要因となるので、マイナスの系列になります。

[前]は前年同月比を表します。

景気動向指数(DI)とは

・景気動向指数は、鉱工業生産指数や有効求人倍率など景気の動きに敏感な各経済部門から選ばれた系列の動きを統合して、単一の系列によって景気の動向を捉えようとしたもので、先行、一致、遅行の各系列の採用系列の変化を3か月前と比較し、改善した系列の割合で、景気の改善、悪化等その局面の方向性を示すものです。

採用している基礎統計が確報値を公表するなどした場合、過去に遡って改訂します。

図表1 山梨県景気動向指数変化方向表

系列名	平成27年				平成28年									
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
先行系列	1 鉱工業在庫率指数(逆)*	+	-	-	+	+	+	+	+	+	-	-	+	+
	2 鉱工業生産指数(生産財)	+	+	+	+	-	-	-	+	-	+	-	+	+
	3 新規求人数(新規学卒を除く全数)	-	+	+	+	-	-	-	+	+	+	-	-	+
	4 新設住宅着工戸数[前]	-	-	+	-	+	-	+	-	+	+	+	-	-
	5 東証業種別株価指数(電気機器)[前]	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	+	+	+
	6 法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI(中小企業 全産業 翌期)注1	+	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+
	7 新車登録・届出台数(乗用車・貨物車)	-	+	-	-	+	+	-	-	+	+	-	+	-
	8 日経商品指数(42種)	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	-	-	+
	拡張系列	3	3	3	4	3	2	2	4	6	6	3	5	6
採用系列	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
先行指数(D.I.) (%)	37.5	37.5	37.5	50.0	37.5	25.0	25.0	50.0	75.0	75.0	37.5	62.5	75.0	
一致系列	1 鉱工業生産指数(鉱工業)	+	+	+	-	-	-	+	+	+	-	-	+	+
	2 百貨店・スーパー販売額[前]	-	+	-	+	-	+	-	-	-	+	+	-	-
	3 所定外労働時間指数(製造業30人以上)	-	-	+	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+
	4 有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	+	+	+	+	-	-	-	+	+	+	+	-	+
	5 県立美術館・富士山世界遺産センター来館者数	+	+	+	-	+	+	-	-	-	-	+	+	+
	拡張系列	3	4	4	2	1	2	1	2	2	3	4	3	4
採用系列	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
一致指数(D.I.) (%)	60.0	80.0	80.0	40.0	20.0	40.0	20.0	40.0	40.0	60.0	80.0	60.0	80.0	
遅行系列	1 実質法人企業設備投資(製造業)注1	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	-	-	+
	2 第3次産業活動指数(対事業所サービス業)	-	-	-	-	+	-	+	+	+	+	-	-	+
	3 家計消費支出(二人以上の世帯)	-	+	+	-	-	-	+	+	+	-	-	+	+
	4 常用雇用指数(製造業30人以上)[前]	+	+	+	+	-	-	-	+	+	-	-	-	-
	5 有効求職者数(逆)	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	-	-
	6 法人事業税(調定額)	+	+	+	-	+	-	+	+	-	-	-	+	-
拡張系列	4	5	5	2	4	1	5	6	5	3	1	2	2	
採用系列	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	
遅行指数(D.I.) (%)	66.7	83.3	83.3	33.3	66.7	16.7	83.3	100.0	83.3	50.0	20.0	40.0	40.0	

注1 「先行系列6 法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI(中小企業 全産業 翌期)」及び実質法人企業設備投資(製造業) は四半期データであるため、四半期に該当する3か月のそれぞれの変化量を等しいとして線形補間しています。(4 - 6月期であれば6月に四半期値を代入)

注2 今回修正した指数は斜体文字で表しています。

(参考：経済関係レポート等抜粋)

月例経済報告(平成28年11月・内閣府・11月25日公表)

景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続かなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

経済・物価情勢の展望(平成28年10月・日本銀行・11月1日公表)

わが国経済は、海外経済の回復に加えて、きわめて緩和的な金融環境と政府の大型経済対策の効果을背景に、2018年度までの見通し期間を通じて、潜在成長率を上回る成長を続けると考えられる。

山梨県金融経済概観(平成28年11月・日本銀行甲府支店・11月10日公表)

県内景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては緩やかに回復しつつある。

個人消費は、全体としては底堅く推移しているものの、弱めの動きに幾分拡がりが見られている。

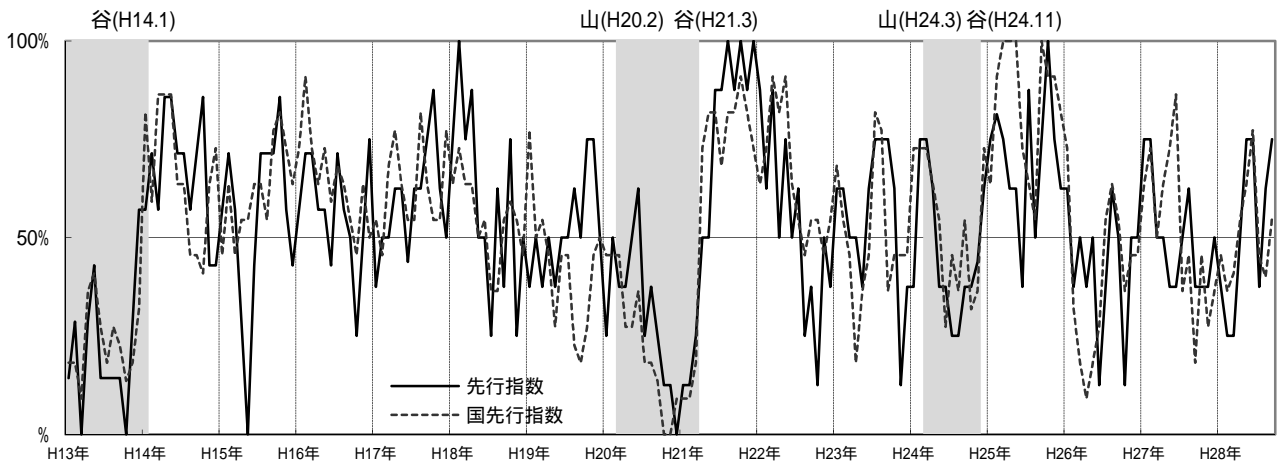
生産は、持ち直しつつある。

景気動向指数(平成28年9月分・内閣府経済社会総合研究所・11月24日公表)

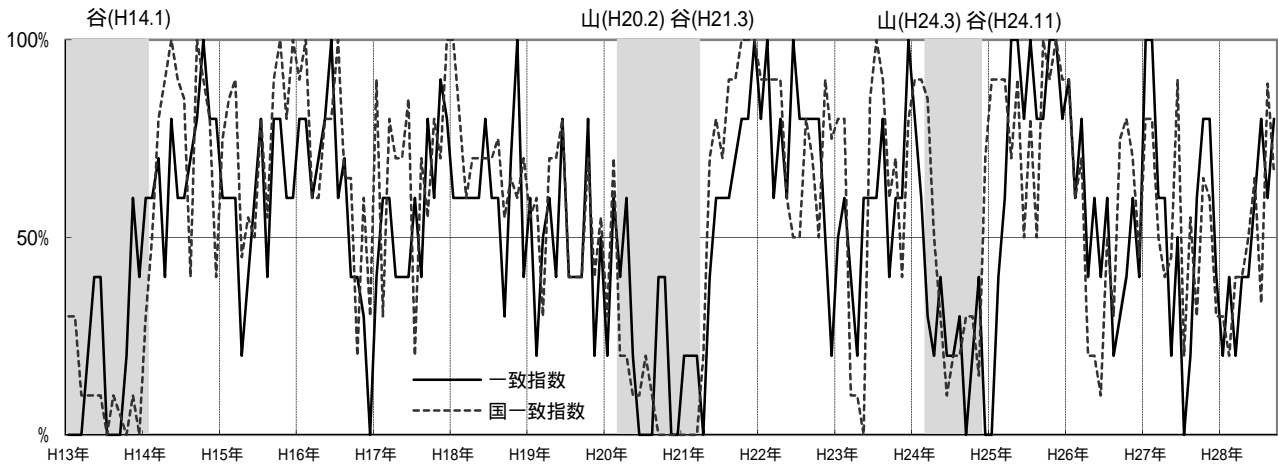
景気動向指数(CI一致指数)は、足踏みを示している。

図表2 山梨県景気動向指数(DI)時系列グラフ

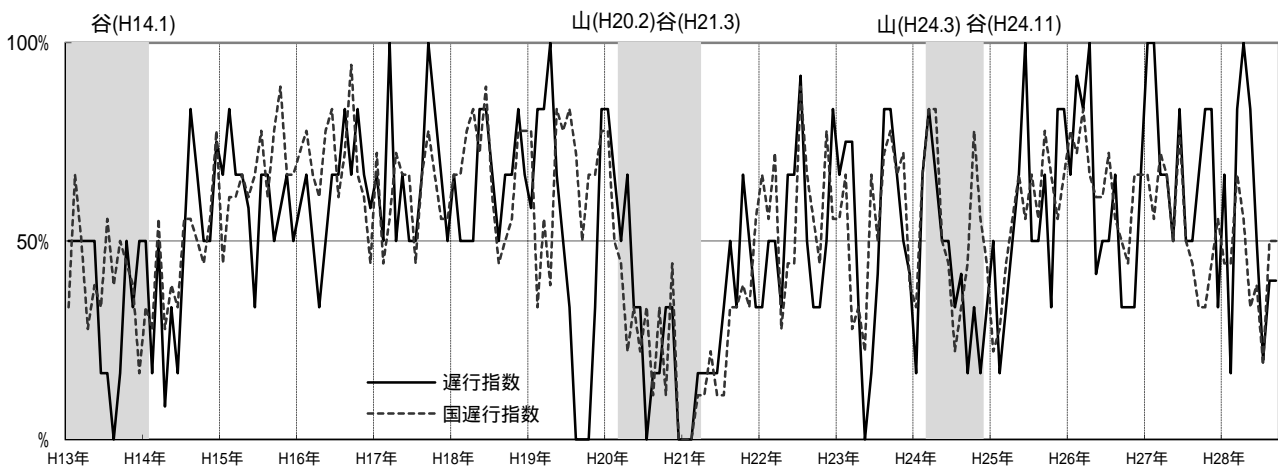
(先行指数)



(一致指数)



(遅行指数)



グラフ中の山・谷は内閣府発表による全国の景気基準日付です。

図表3 山梨県景気動向指数(DI)指数表

(先行指数)

		単位(%)											
西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2005	H17	37.5	50.0	50.0	62.5	62.5	43.8	62.5	62.5	75.0	87.5	62.5	50.0
2006	H18	75.0	100.0	75.0	87.5	50.0	50.0	25.0	62.5	37.5	75.0	25.0	50.0
2007	H19	37.5	50.0	37.5	50.0	37.5	50.0	50.0	62.5	50.0	75.0	75.0	50.0
2008	H20	25.0	50.0	37.5	37.5	50.0	62.5	25.0	37.5	25.0	12.5	12.5	0.0
2009	H21	12.5	12.5	25.0	50.0	50.0	87.5	87.5	100.0	87.5	100.0	87.5	100.0
2010	H22	87.5	62.5	87.5	50.0	75.0	50.0	62.5	25.0	37.5	12.5	50.0	37.5
2011	H23	62.5	62.5	50.0	50.0	37.5	62.5	75.0	75.0	75.0	62.5	12.5	37.5
2012	H24	37.5	75.0	75.0	62.5	37.5	37.5	25.0	25.0	37.5	37.5	43.8	62.5
2013	H25	75.0	81.3	75.0	62.5	62.5	37.5	87.5	50.0	75.0	100.0	75.0	62.5
2014	H26	62.5	37.5	50.0	37.5	50.0	12.5	37.5	62.5	50.0	12.5	50.0	50.0
2015	H27	75.0	75.0	50.0	50.0	37.5	37.5	50.0	62.5	37.5	37.5	37.5	50.0
2016	H28	37.5	25.0	25.0	50.0	75.0	75.0	37.5	62.5	75.0			

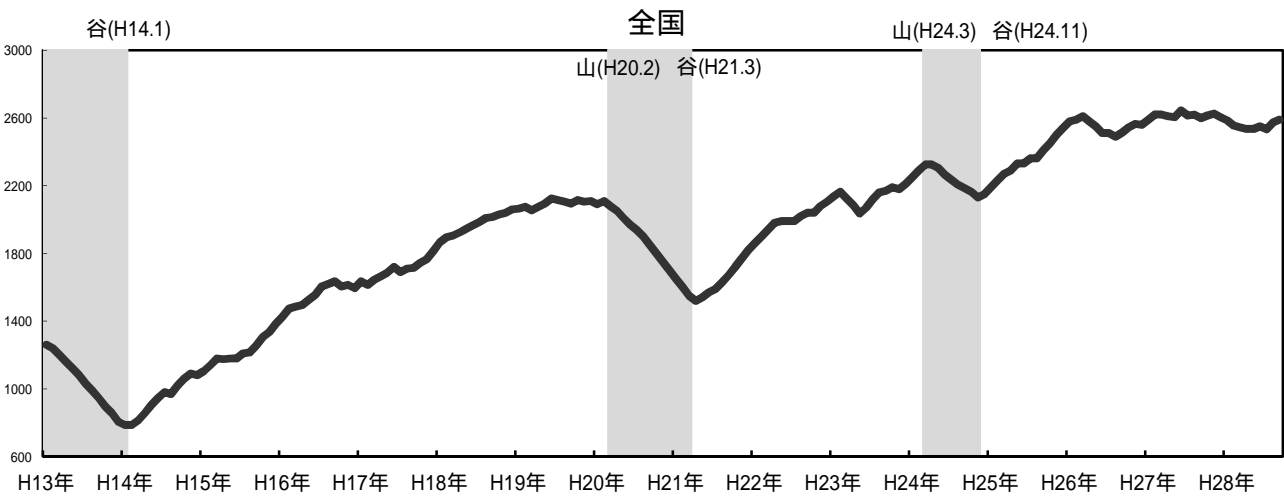
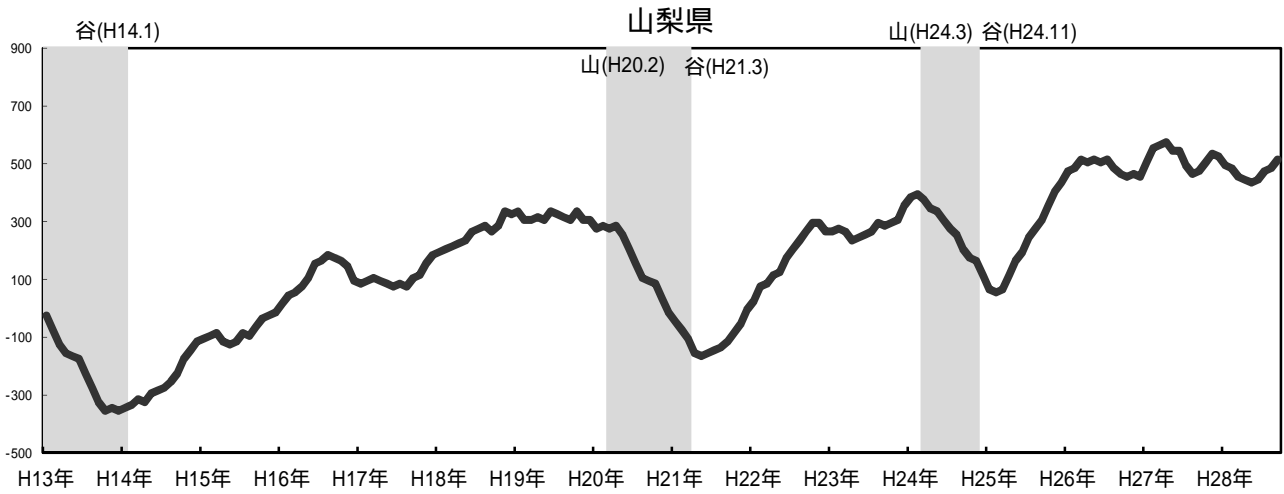
(一致指数)

		単位(%)											
西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2005	H17	40.0	60.0	60.0	40.0	40.0	40.0	60.0	40.0	80.0	60.0	90.0	80.0
2006	H18	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	80.0	60.0	60.0	30.0	70.0	100.0	40.0
2007	H19	60.0	20.0	50.0	60.0	40.0	80.0	40.0	40.0	40.0	80.0	20.0	50.0
2008	H20	20.0	60.0	40.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0
2009	H21	20.0	20.0	20.0	0.0	40.0	60.0	60.0	60.0	70.0	80.0	80.0	100.0
2010	H22	80.0	100.0	60.0	80.0	60.0	100.0	80.0	80.0	80.0	80.0	50.0	20.0
2011	H23	50.0	60.0	40.0	20.0	60.0	60.0	60.0	80.0	40.0	60.0	60.0	100.0
2012	H24	80.0	60.0	30.0	20.0	40.0	20.0	20.0	30.0	0.0	20.0	40.0	0.0
2013	H25	0.0	40.0	60.0	100.0	100.0	80.0	100.0	80.0	80.0	100.0	100.0	80.0
2014	H26	90.0	60.0	80.0	40.0	60.0	40.0	60.0	20.0	30.0	40.0	60.0	40.0
2015	H27	100.0	100.0	60.0	60.0	20.0	50.0	0.0	20.0	60.0	80.0	80.0	40.0
2016	H28	20.0	40.0	20.0	40.0	40.0	60.0	80.0	60.0	80.0			

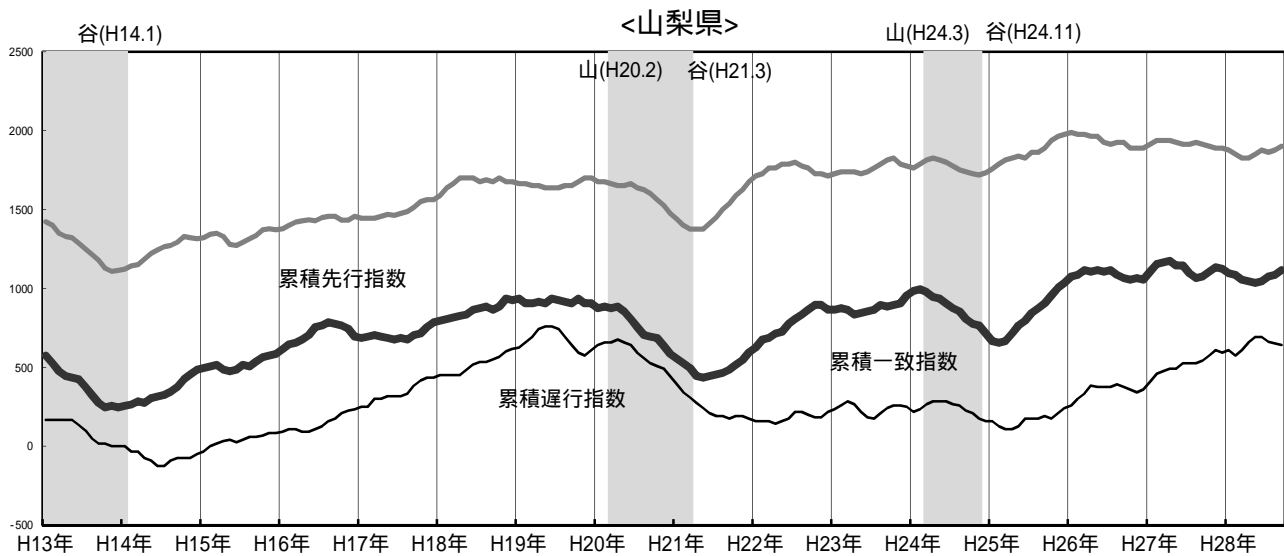
(遅行指数)

		単位(%)											
西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2005	H17	66.7	50.0	100.0	50.0	66.7	50.0	50.0	66.7	100.0	83.3	66.7	50.0
2006	H18	66.7	50.0	50.0	50.0	83.3	83.3	66.7	50.0	66.7	66.7	83.3	66.7
2007	H19	58.3	83.3	83.3	100.0	66.7	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	83.3
2008	H20	83.3	66.7	50.0	66.7	33.3	33.3	0.0	16.7	16.7	33.3	33.3	0.0
2009	H21	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3	50.0	33.3	66.7	50.0	33.3
2010	H22	33.3	50.0	50.0	33.3	66.7	66.7	91.7	50.0	33.3	33.3	50.0	83.3
2011	H23	66.7	75.0	75.0	33.3	0.0	16.7	41.7	83.3	83.3	66.7	50.0	41.7
2012	H24	16.7	66.7	83.3	66.7	50.0	50.0	33.3	41.7	16.7	33.3	16.7	33.3
2013	H25	50.0	16.7	33.3	50.0	66.7	100.0	50.0	50.0	66.7	33.3	83.3	83.3
2014	H26	66.7	91.7	83.3	100.0	41.7	50.0	50.0	66.7	33.3	33.3	33.3	66.7
2015	H27	100.0	100.0	66.7	66.7	50.0	83.3	50.0	50.0	66.7	83.3	83.3	33.3
2016	H28	66.7	16.7	83.3	100.0	83.3	50.0	20.0	40.0	40.0			

図表4 - 1 DI累積指数グラフ(一致)



図表4 - 2 DI累積指数グラフ(先行・一致・遅行)



(注1) グラフを見やすくするため、先行指数は1500、一致指数は600を加算しています。

図表5 山梨県景気動向指数個別系列の概要

	系列名	季節調整方法等	作成機関	資料出所
先行系列	1 鉱工業在庫率指数(逆)	X-12-ARIMA	山梨県県民生活部統計調査課 商工業担当	鉱工業指数
	2 鉱工業生産指数(生産財)	X-12-ARIMA	山梨県県民生活部統計調査課 商工業担当	鉱工業指数
	3 新規求人数(新規学卒を除く全数)	X-12-ARIMA	山梨労働局職業安定部	時系列職業紹介統計表
	4 新設住宅着工戸数	前年同月比	国土交通省	建築着工統計調査
	5 東証業種別株価指数(電気機器)	前年同月比	(株)東京証券取引所	株価指数・株価平均
	6 法人企業景気予測調査・貴社の景況判断 BSI(中小企業 全産業 翌期)	実数	甲府財務事務所	法人企業景気予測調査結果 (山梨県分)
	7 新車登録・届出台数(乗用車・貨物車)	X-12-ARIMA	山梨県自動車販売店協会 山梨県軽自動車協会	新車登録・届出状況
	8 日経商品指数(42種総合)	原数値	(株)日本経済新聞社	日本経済新聞
一致系列	1 鉱工業生産指数(鉱工業)	X-12-ARIMA	山梨県県民生活部統計調査課 商工業担当	鉱工業指数
	2 百貨店・スーパー販売額	前年同月比	経済産業省	商業動態統計調査
	3 所定外労働時間指数(製造業30人以上)	X-12-ARIMA	山梨県県民生活部統計調査課 人口労働担当	県毎月勤労統計調査
	4 有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	X-12-ARIMA	山梨労働局職業安定部	時系列職業紹介統計表
	5 県立美術館・富士山世界遺産センター来館者数 ^{注3}	X-12-ARIMA	山梨県教育委員会学術文化財課、 山梨県県民生活部世界遺産富士山課	作成機関資料
遅行系列	1 実質法人企業設備投資(製造業)	X-12-ARIMA	財務省	法人企業統計季報
	2 第3次産業活動指数(対事業所サービス業)	X-12-ARIMA	経済産業省	第3次産業活動指数
	3 家計消費支出(二人以上の世帯)	X-12-ARIMA	総務省	家計調査報告
	4 常用雇用指数(製造業30人以上)	前年同月比 X-12-ARIMA	山梨県県民生活部統計調査課 人口労働担当	県毎月勤労統計調査
	5 有効求職者数(逆)	X-12-ARIMA	山梨労働局職業安定部	労働市場の動き
	6 法人事業税(調定額)	X-12-ARIMA	山梨県総務部税務課	県税徴収状況(作成機関資料)

山梨県景気動向指数を作成する際に、独自に季節調整を行っています。

注1) 及び は、四半期データであるため、月次のDIを計算するため四半期に該当する3か月のそれぞれの変化量を等しいとして線形補間しています(4 - 6月期であれば6月に四半期値を代入)。

注2) 平成28年4月分公表から、採用系列の見直しを行いました。
先行系列の採用指標に「新車登録・届出台数(乗用車・貨物車)」及び「日経商品指数(42種総合)」を追加しました。
また、一致系列の採用指標のうち、「電力大口使用量」を除外し、「百貨店・スーパー販売額」を採用しました。

注3) 平成28年6月より、富士ピジターセンターは富士山世界遺産センターに名称変更しました。
山梨県景気動向指数の作成にあたっては、「センター北館」の来館者数を使用しています。

図表6 個別系列の数値

(先行系列)

系列名 年月	鉱工業在庫率 指数(逆)	鉱工業生産指数 (生産財)	新規求人人数(新 規学卒を除く全 数)	新設住宅 着工戸数	東証業種別株価 指数(電気機器)	法人企業景気予測 調査・貴社の景況 判断BSI(中小企業 全産業 翌期)	新車登録・ 届出台数 (乗用車・貨物 車)	日経商品指数 (42種)
	季節調整値 %	季節調整値 H22=100	季節調整値 人	前年同月比 %	前年同月比 %	実数 %ポイント	季節調整値 台	原指数 1970年=100
H27. 9	73.4	88.9	4,854	94.7	94.1	9.4	3,167	166.020
10	73.4	90.8	5,481	73.8	108.6	4.9	3,177	165.098
11	76.3	91.9	5,354	121.5	102.4	0.5	2,973	163.272
12	73.0	89.8	5,312	64.4	98.3	-4.0	3,134	160.852
H28. 1	71.7	90.7	5,146	78.0	85.9	-8.4	3,270	155.948
2	72.9	89.2	5,291	80.3	75.3	-12.9	3,043	154.942
3	70.9	87.2	5,041	128.6	76.8	-17.3	2,805	156.095
4	70.4	96.7	5,649	59.8	75.1	-13.0	3,047	158.194
5	72.4	88.4	5,893	143.3	73.7	-8.8	3,093	158.665
6	71.0	90.8	5,462	157.1	70.5	-4.5	2,940	156.704
7	74.2	94.3	5,460	138.6	80.3	-4.4	2,976	157.572
8	62.2	102.3	5,334	76.8	91.2	-4.4	3,143	156.636
9	58.6	99.4	5,822	71.9	99.3	-4.3	2,910	156.713

(一致系列)

系列名 年月	鉱工業生産指数 (鉱工業)	百貨店・スー パー販売額	所定外労働時間 指数(製造業30 人以上)	有効求人倍率 (新規学卒を除く 全数)	県立美術館・富 士山世界遺産セ ンター来館者数
	季節調整値 H22=100	前年同月比 %	季節調整値 H22=100	季節調整値 倍	季節調整値 人
H27. 9	99.8	99.0	100.6	1.00	37,537
10	99.4	102.4	99.2	1.03	36,713
11	100.2	97.5	99.7	1.05	32,563
12	99.1	99.6	98.2	1.06	35,644
H28. 1	97.2	99.9	96.5	1.02	37,641
2	99.6	100.9	97.9	1.02	57,980
3	100.7	97.5	96.6	1.04	34,222
4	101.9	99.0	94.3	1.12	23,084
5	102.4	96.7	92.7	1.22	29,195
6	95.1	97.8	97.0	1.22	23,580
7	95.2	100.6	96.7	1.22	28,759
8	105.6	96.2	96.5	1.20	34,706
9	108.3	97.4	98.3	1.24	34,104

(遅行系列)

系列名 年月	実質法人企業設 備投資(製造業)	第3次産業活動 指数(対事業所 サービス業)	家計消費支出 (二人以上の世 帯)	常用雇用指数 (製造業30人 以上)	有効求職者数 (逆)	法人事業税 (調定額)
	季節調整値 百万円	季節調整値 H22=100	季節調整値 円	前年同月比 季節調整値 %	季節調整値 人	季節調整値 百万円
H27. 9	3,609,628	102.5	287,866	106.0	13,621	2,519
10	3,608,909	101.3	292,184	106.7	13,545	2,178
11	3,608,190	102.6	281,185	107.2	13,508	2,117
12	3,607,470	101.5	275,543	106.3	13,532	2,277
H28. 1	3,625,101	104.4	250,269	99.9	13,195	2,291
2	3,642,732	101.0	252,546	100.2	13,735	1,872
3	3,660,363	103.8	321,470	101.3	13,228	3,633
4	3,684,858	108.4	301,987	101.5	13,072	3,029
5	3,709,353	104.0	278,423	100.9	12,594	1,425
6	3,733,848	104.8	277,832	100.1	12,464	2,623
7		105.7	297,913	99.9	12,535	2,305
8		103.5	315,114	99.6	12,807	2,309
9		107.2	302,424	99.9	12,779	2,279

山梨県景気動向指数を作成する際に、独自に季節調整を行っています。

<参考> 山梨県CI(先行指数)

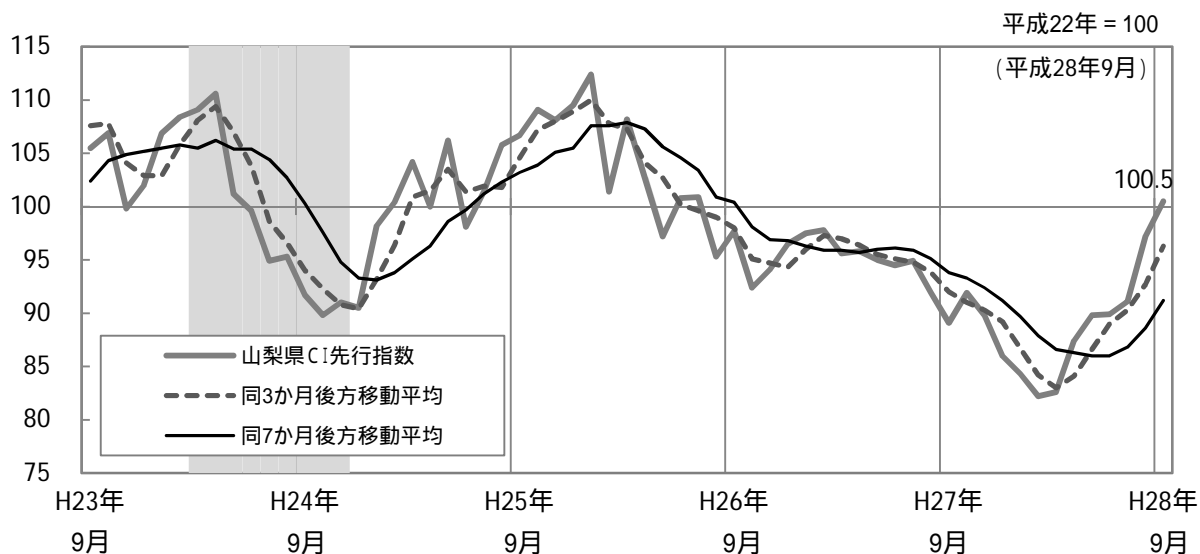
山梨県CIの構成指標は、山梨県DIと共通の指標としています。

1. 平成28年9月分 山梨県CI(先行指数)の概要

9月の山梨県CI先行指数(H22 = 100)は、100.5となり、前月と比較して3.3ポイント上昇し、7か月連続の上昇となりました。3か月後方移動平均は3.54ポイント上昇し、6か月連続の上昇、7か月後方移動平均は2.61ポイント上昇し、4か月連続の上昇となりました。

山梨県CIは、指数の変化の大きさから、景気の拡張又は後退の大きさを読み取ります。
 CIは不規則な変動も含まれていることから、足下の基調の変化をつかみやすい3か月後方移動平均と、
 足下の基調の変化が定着しつつあることを確認する7か月後方移動平均をあわせて掲載しています。

2. 山梨県CI(先行指数)の推移



3. 山梨県CI(先行指数)採用系列の寄与度^注

		平成28年					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
山梨県CI先行指数	前月差(ポイント)	87.4	89.8	89.9	91.1	97.2	100.5
	寄与度	4.8	2.4	0.1	1.2	6.1	3.3
1 鉱工業在庫率指数(逆)	前月比伸び率(%)	-0.7	2.8	-1.9	4.5	-16.2	-5.8
	寄与度	-0.09	-0.93	0.32	-1.30	4.24	1.38
2 鉱工業生産指数(生産財)	前月比伸び率(%)	10.9	-8.6	2.7	3.9	8.5	-2.8
	寄与度	3.61	-1.95	0.82	1.17	2.80	-1.52
3 新規求人数 (新規学卒を除く全数)	前月比伸び率(%)	12.1	4.3	-7.3	0.0	-2.3	9.2
	寄与度	2.34	0.87	-1.92	-0.13	-0.62	2.11
4 新設住宅着工戸数	前月差	-68.8	83.5	13.8	-18.5	-61.8	-4.9
	寄与度	-2.18	3.16	0.14	-0.68	-2.35	-0.23
5 東証業種別株価指数 (電気機器)	前月差	-1.7	-1.4	-3.2	9.8	10.9	8.1
	寄与度	0.07	0.12	-0.20	2.00	1.92	1.37
6 法人企業景気予測調査・貴社の 景況判断BSI(中小企業 全産業 翌期)	前月比伸び率(%)	4.3	4.3	4.3	0.1	0.1	0.1
	寄与度	0.99	0.98	0.96	0.10	0.11	0.13
7 新車登録・届出台数 (乗用車・貨物車)	前月比伸び率(%)	8.6	1.5	-5.0	1.2	5.6	-7.4
	寄与度	1.83	0.42	-1.03	0.42	1.48	-1.72
8 日経商品指数(42種総合)	前月比伸び率(%)	1.3	0.3	-1.2	0.6	-0.6	0.1
	寄与度	1.91	1.01	-0.36	1.31	0.18	0.64
3か月後方移動平均		84.1	86.6	89.0	90.3	92.7	96.3
前月差(ポイント)		1.04	2.53	2.43	1.24	2.46	3.54
7か月後方移動平均		86.3	86.0	86.0	86.8	88.6	91.2
前月差(ポイント)		-0.25	-0.30	0.02	0.73	1.84	2.61

注:山梨県CIの前月からの変化(前月差)が、各採用系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

<参考> 山梨県CI(一致指数)

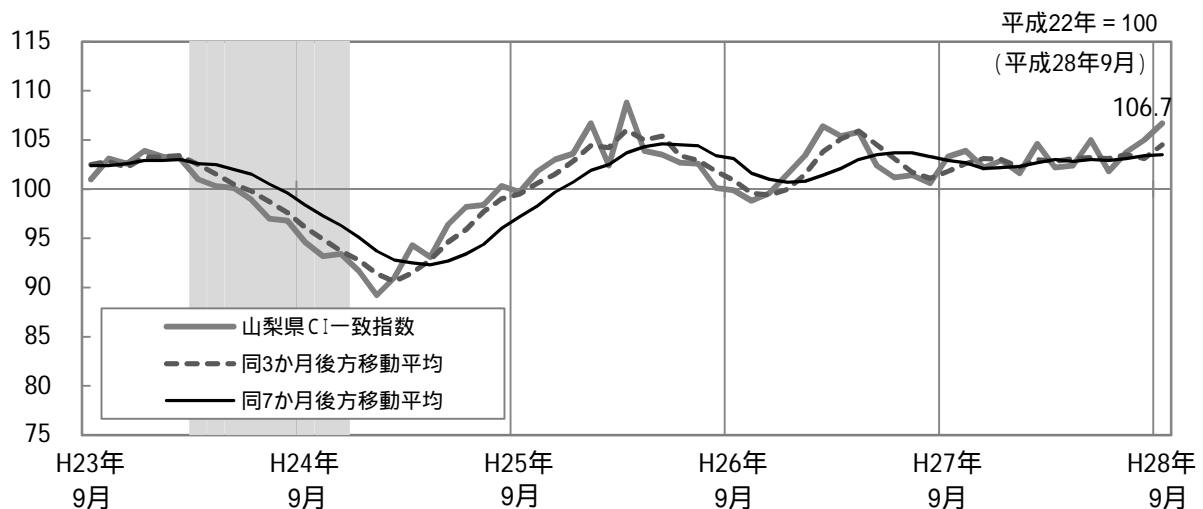
山梨県CIの構成指標は、山梨県DIと共通の指標としています。

1. 平成28年9月分 山梨県CI(一致指数)の概要

9月の山梨県CI一致指数(H22 = 100)は、106.7となり、前月と比較して1.7ポイント上昇し、3か月連続の上昇となりました。3か月後方移動平均は1.64ポイント上昇し、2か月ぶりの上昇、7か月後方移動平均は0.3ポイント上昇し、3か月連続の上昇となりました。

山梨県CIは、指数の変化の大きさから、景気の拡張又は後退の大きさを読み取ります。
CIは不規則な変動も含まれていることから、足下の基調の変化をつかみやすい3か月後方移動平均と、足下の基調の変化が定着しつつあることを確認する7か月後方移動平均をあわせて掲載しています。

2. 山梨県CI(一致指数)の推移



3. 山梨県CI(一致指数)採用系列の寄与度^注

		平成28年					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
山梨県CI一致指数		102.4	105.0	101.8	103.8	105.0	106.7
	前月差(ポイント)	0.2	2.6	-3.2	2.0	1.2	1.7
1 鉱工業生産指数(鉱工業)	前月比伸び率(%)	1.2	0.5	-7.1	0.1	10.9	2.6
	寄与度	0.29	0.12	-1.81	0.02	1.34	0.66
2 百貨店・スーパー販売額	前月差	1.5	-2.3	1.1	2.8	-4.4	1.2
	寄与度	0.32	-0.49	0.24	0.59	-0.95	0.27
3 所定外労働時間指数 (製造業30人以上)	前月比伸び率(%)	-2.4	-1.7	4.6	-0.3	-0.2	1.9
	寄与度	-0.43	-0.31	0.86	-0.05	-0.03	0.36
4 有効求人倍率 (新規学卒を除く全数)	前月差	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	寄与度	1.58	1.36	-0.31	-0.32	-0.76	0.62
5 県立美術館・富士山世界遺産 センター来館者数	前月比伸び率(%)	-32.6	26.5	-19.2	22.0	20.7	-1.7
	寄与度	-1.52	1.88	-2.16	1.70	1.62	-0.15
3か月後方移動平均		103.1	103.2	103.1	103.5	103.1	104.5
	前月差(ポイント)	0.27	0.13	-0.13	0.46	-0.43	1.37
7か月後方移動平均		102.8	103.0	102.9	103.1	103.4	103.5
	前月差(ポイント)	-0.13	0.16	-0.06	0.13	0.30	0.18

注: 山梨県CIの前月からの変化(前月差)が、各採用系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

<参考> 山梨県CI(遅行指数)

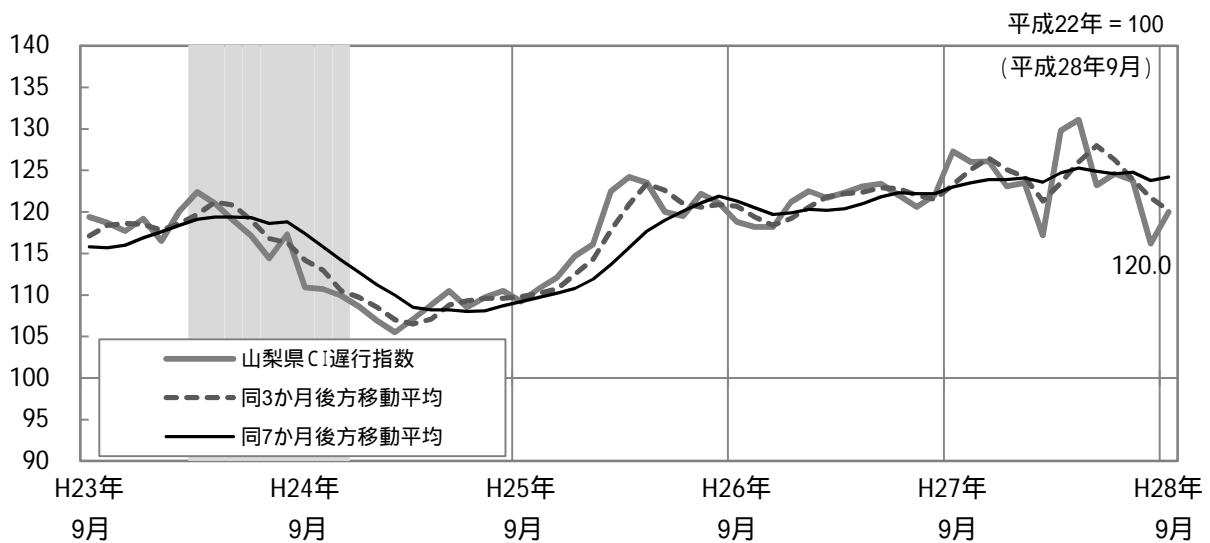
山梨県CIの構成指標は、山梨県DIと共通の指標としています。

1. 平成28年9月分 山梨県CI(遅行指数)の概要

9月の山梨県CI遅行指数(H22 = 100)は、120.0となり、前月と比較して3.8ポイント上昇し、3か月ぶりの上昇となりました。3か月後方移動平均は1.53ポイント下降し、4か月連続の下降、7か月後方移動平均は0.4ポイント上昇し、2か月ぶりの上昇となりました。

山梨県CIは、指数の変化の大きさから、景気の拡張又は後退の大きさを読み取ります。
CIは不規則な変動も含まれていることから、足下の基調の変化をつかみやすい3か月後方移動平均と、足下の基調の変化が定着しつつあることを確認する7か月後方移動平均をあわせて掲載しています。

2. 山梨県CI(遅行指数)の推移



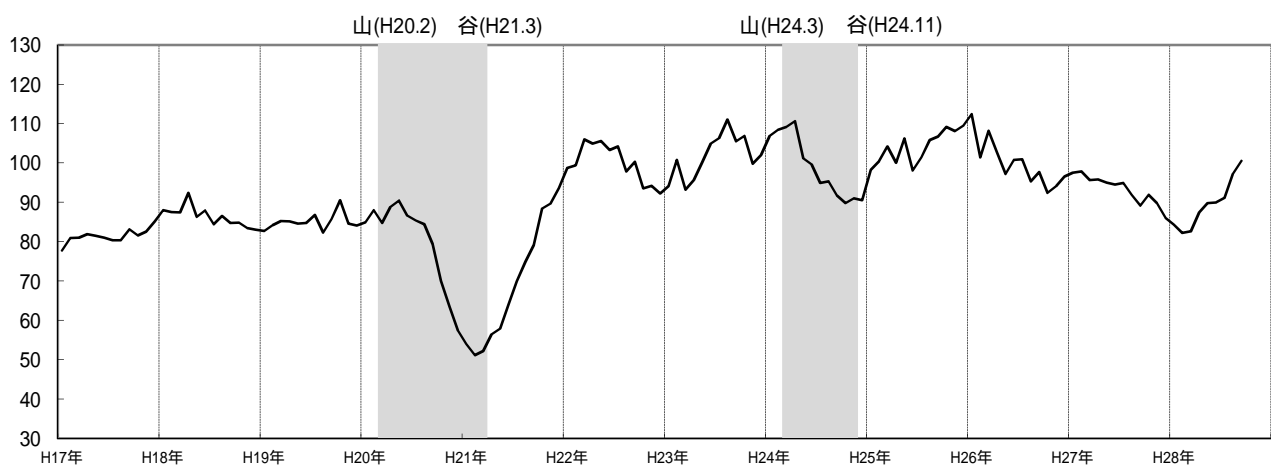
3. 山梨県CI(遅行指数)採用系列の寄与度^注

		平成28年					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
山梨県CI遅行指数	前月差(ポイント)	131.1	123.2	124.6	123.8	116.2	120.0
	寄与度	1.3	-7.9	1.4	-0.8	-7.6	3.8
1 実質法人企業設備投資(製造業)	前月比伸び率(%)	0.7	0.7	0.7			
	寄与度	-0.06	-0.03	-0.04			
2 第3次産業活動指数(対事業所サービス)	前月比伸び率(%)	4.4	-4.1	0.8	0.9	-2.1	3.6
	寄与度	2.85	-3.74	0.54	0.73	-2.22	2.78
3 家計消費支出(二人以上の世帯)	前月比伸び率(%)	-6.1	-7.8	-0.2	7.2	5.8	-4.0
	寄与度	-0.77	-0.98	0.01	0.94	0.68	-0.51
4 常用雇用指数(製造業30人以上)	前月差	0.2	-0.6	-0.8	-0.2	-0.3	0.3
	寄与度	0.25	-0.98	-1.26	-0.34	-3.93	1.85
5 有効求職者数(逆)	前月差	-1.2	-3.7	-1.0	0.6	2.2	-0.2
	寄与度	0.48	0.72	0.21	-1.07	-2.09	-0.24
6 法人事業税(調定額)	前月比伸び率(%)	-16.6	-53.0	84.1	-12.1	0.2	-1.3
	寄与度	-1.47	-3.15	2.04	-1.18	-0.11	-0.25
3か月後方移動平均		126.0	128.0	126.3	123.9	121.7	120.2
前月差(ポイント)		2.53	2.00	-1.73	-2.40	-2.20	-1.47
7か月後方移動平均		125.3	124.9	124.6	124.8	123.8	124.2
前月差(ポイント)		0.55	-0.40	-0.22	0.12	-0.99	0.43

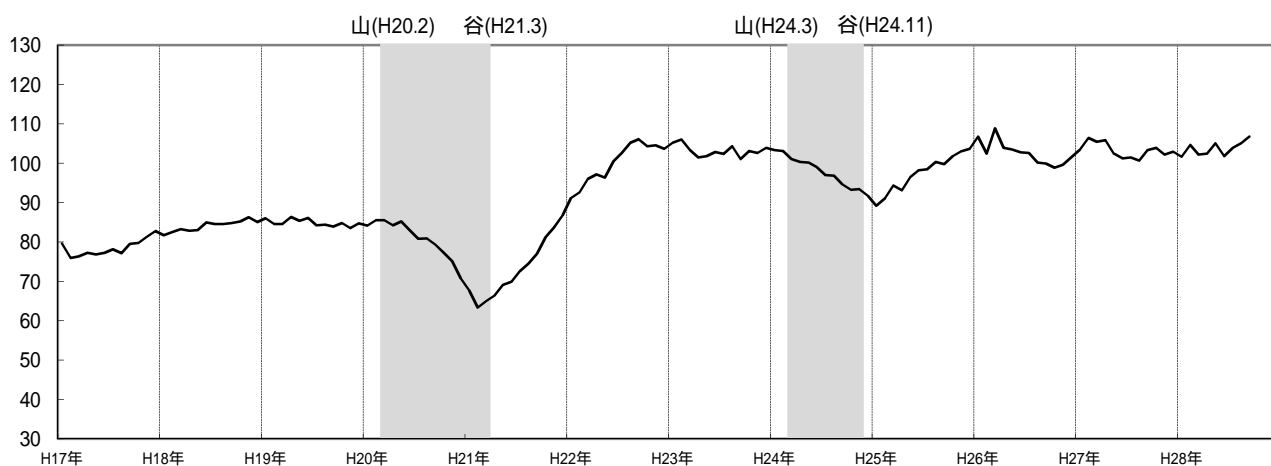
注: 山梨県CIの前月からの変化(前月差)が、各採用系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

図表7 山梨県景気動向指数(CI)時系列グラフ

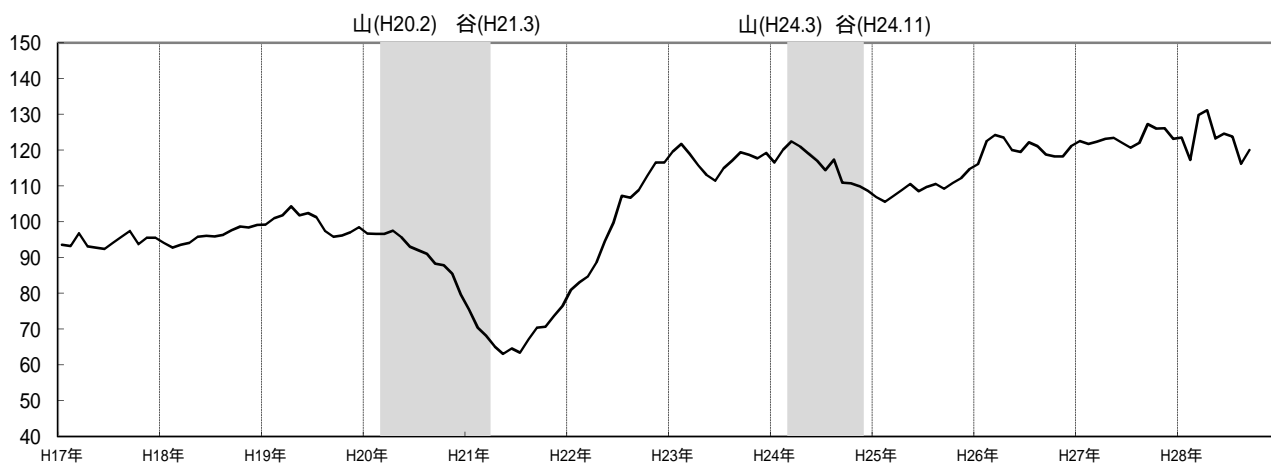
(先行指数)



(一致指数)



(遅行指数)



グラフ中の山・谷は内閣府発表による全国の景気基準日付です。

図表8 山梨県景気動向指数(CI)指数表

(先行指数)

H22=100

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2005	H17	77.7	80.9	81.0	81.9	81.5	81.0	80.3	80.3	83.1	81.6	82.5	85.1
2006	H18	88.0	87.5	87.4	92.4	86.3	87.9	84.4	86.5	84.7	84.8	83.4	83.0
2007	H19	82.7	84.2	85.2	85.1	84.6	84.7	86.8	82.3	85.7	90.5	84.6	84.1
2008	H20	84.9	88.0	84.7	88.8	90.4	86.6	85.4	84.4	79.4	70.0	63.4	57.4
2009	H21	54.0	51.1	52.2	56.4	57.9	64.0	69.9	74.9	79.1	88.4	89.7	93.6
2010	H22	98.7	99.4	106.0	104.9	105.6	103.3	104.2	97.8	100.3	93.5	94.2	92.2
2011	H23	94.1	100.8	93.2	95.6	100.1	104.9	106.3	111.0	105.5	106.9	99.8	102.0
2012	H24	106.9	108.4	109.1	110.6	101.2	99.6	94.9	95.3	91.7	89.8	91.0	90.5
2013	H25	98.2	100.4	104.2	100.0	106.2	98.1	101.4	105.8	106.7	109.1	108.1	109.5
2014	H26	112.4	101.4	108.2	102.7	97.2	100.8	100.9	95.3	97.7	92.4	94.1	96.5
2015	H27	97.5	97.8	95.6	95.8	95.0	94.5	94.9	91.9	89.1	91.9	89.8	86.0
2016	H28	84.3	82.2	82.6	87.4	89.8	89.9	91.1	97.2	100.5			

(一致指数)

H22=100

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2005	H17	79.6	75.9	76.3	77.2	76.8	77.2	78.1	77.1	79.5	79.7	81.3	82.7
2006	H18	81.7	82.5	83.2	82.8	83.0	84.9	84.5	84.5	84.8	85.2	86.2	85.0
2007	H19	86.0	84.5	84.5	86.3	85.3	86.1	84.2	84.4	83.9	84.8	83.5	84.7
2008	H20	84.1	85.5	85.5	84.2	85.2	82.9	80.8	80.9	79.3	77.2	75.1	70.7
2009	H21	67.7	63.3	64.9	66.4	69.1	69.9	72.6	74.5	77.0	81.2	83.6	86.7
2010	H22	91.1	92.6	96.0	97.1	96.3	100.5	102.6	105.2	106.1	104.3	104.5	103.6
2011	H23	105.2	106.0	103.4	101.4	101.8	102.8	102.3	104.3	101.0	103.1	102.6	103.9
2012	H24	103.3	103.1	101.0	100.3	100.1	98.9	97.0	96.8	94.6	93.2	93.4	91.7
2013	H25	89.2	91.0	94.3	93.1	96.4	98.2	98.4	100.3	99.7	101.8	103.0	103.6
2014	H26	106.7	102.4	108.8	103.9	103.5	102.7	102.6	100.1	99.9	98.8	99.6	101.5
2015	H27	103.4	106.4	105.4	105.8	102.4	101.2	101.4	100.6	103.3	103.9	102.2	102.9
2016	H28	101.6	104.6	102.2	102.4	105.0	101.8	103.8	105.0	106.7			

(遅行指数)

H22=100

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2005	H17	93.5	93.2	96.8	93.1	92.7	92.4	94.1	95.8	97.4	93.7	95.5	95.5
2006	H18	94.1	92.7	93.5	94.1	95.8	96.0	95.9	96.3	97.6	98.6	98.4	99.1
2007	H19	99.2	101.0	101.8	104.3	101.8	102.4	101.2	97.4	95.8	96.1	97.0	98.5
2008	H20	96.7	96.6	96.6	97.5	95.7	93.0	92.0	91.0	88.3	87.8	85.5	79.6
2009	H21	75.5	70.4	68.1	65.1	63.0	64.6	63.4	67.2	70.4	70.6	73.6	76.5
2010	H22	80.9	83.1	84.7	88.6	94.5	99.7	107.2	106.7	108.8	112.9	116.5	116.5
2011	H23	119.6	121.7	118.9	115.7	113.0	111.4	114.9	117.1	119.4	118.7	117.7	119.2
2012	H24	116.5	120.1	122.4	121.0	119.0	117.1	114.4	117.3	110.9	110.7	109.9	108.6
2013	H25	106.9	105.5	107.1	108.8	110.5	108.5	109.7	110.5	109.2	110.8	112.1	114.7
2014	H26	116.1	122.5	124.2	123.5	120.0	119.5	122.2	121.1	118.8	118.2	118.2	121.2
2015	H27	122.5	121.7	122.3	123.1	123.4	122.0	120.6	122.0	127.3	126.0	126.1	123.1
2016	H28	123.5	117.2	129.8	131.1	123.2	124.6	123.8	116.2	120.0			

利用の手引き

(1) 景気動向指数(DI)の概要

DI(ディフュージョン インデックス)には先行、一致、遅行の3本の指数があります。先行指数は景気の先行を示し、一致指数は景気にほぼ一致して動いて現状を示し、遅行指数は景気に遅れて動きを示します。一般的に先行指数は、一致指数に数箇月程度先行することから「景気の動きを予測」し、遅行指数は一致指数に数か月から半年遅れることから「景気の転換点や局面の確認」に利用することができます。

景気動向指数(DI)の作成方法

DIは、景気と対応性のある経済統計データを選定し、的確に季節の変動を除去した上で(季節調整)、3か月前の値と比べることにより作成します。

・DIの計算

各個別系列の数値を3か月前と比較して、増加したときは+を、減少したときは-を、変化のなかったときは0(もちあい)をつけます。(景気が良ければ減少し、悪ければ増加する性質のある逆サイクルの系列は増加を-、減少を+とします。)

その上で、先行、一致、遅行の各系列ごとに、採用系列数に占める拡張系列数(+の数)の割合(%)を求めます。

$$DI = \text{拡張系列数} / \text{採用系列数} \times 100 (\%)$$

(0(もちあい)は0.5としてカウントします。)

・季節調整

統計調査等によって集計された値には、毎年繰り返される規則的な増減(季節変動)が含まれることが多く、景気変動を把握するため、公表される統計の値から季節変動を除去することを季節調整といい、その方法として、米センサス局法X-12-ARIMAや前年同月比を用いています。

指数の見方

・景気の局面

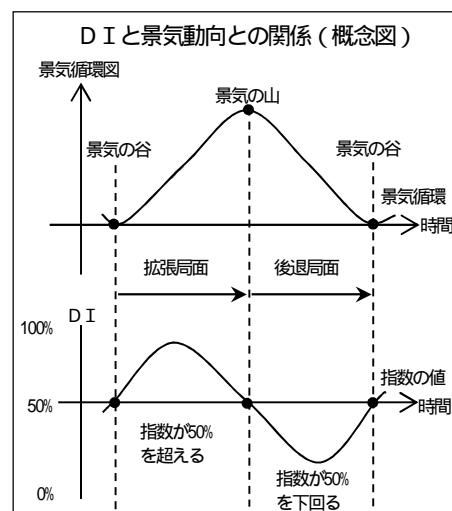
DIでは景気の二局面「拡張」「後退」をみることができます。一般的に一致指数が概ね3か月連続で50%超であれば「拡張傾向」、逆に3か月連続で50%を下回れば「後退傾向」と考えられます。実際には個別系列の不規則な変動が合成されて大きなぶれが生じることもあります。

・景気の山・谷

景気の山は、一致指数で50%超が続く時期(拡張局面)から、50%未滿が続く時期への転換点、50%超から50%未滿へ向かう時期の近辺にあり、景気の谷は逆に50%未滿から50%超へと向かう時期の近辺にあるものと一般的には考えられます。

[参考]

DIは、景気が拡張傾向あるいは後退傾向のいずれにあるかを判断する指標であり、一致指数が50%を超え続け、方向としては拡張傾向にある場合でも、景気変化が緩慢で景気水準も低い場合は、実感として回復(拡張)感を感じられないこともあります。このため、現実の経済活動の中で感じ取れる「実感」とは異なることがあります。



(2) 参考指標「山梨県CI」について

山梨県CI(コンポジット インデックス)は、構成指標の動き(変化量)を合成した指数で、過去と比較した相対的な景気変動の大きさを示します。景気の方角感を示す山梨県DIと併せて利用することにより、山梨県の景気の現状把握に活用することができます。山梨県DIを補完する参考指標として、平成26年2月より一致指数を、平成28年6月より先行指数及び遅行指数を公表開始しました。

山梨県CIの作成方法

山梨県CIの作成方法は、内閣府のCI作成方法に準じています。また、構成指標は山梨県DIと共通の指標としています。山梨県CIの作成方法を簡潔に述べると、山梨県DIの個別指標における前月比変化率を、過去の平均的な変動と比較することによって基準化し、それらの平均を求めて合成し、指数化します。

詳しくは内閣府のホームページをご覧ください。(<http://www.esri.cao.go.jp/stat/di/di3.html#link002>)

山梨県CIの見方

山梨県CIの変化の大きさから、景気の拡張又は後退の大きさを読み取ります。CIには不規則な動きも含まれていることから、ある程度の期間の月々の動きをならしてみることが望ましく、統計表には、足下の基調の変化をつかみやすい3か月後方移動平均と、足下の基調の変化が定着しつつあることを確認する7か月後方移動平均をあわせて掲載しています。

(3) DIとCIの違い

DIが同じ数値で計測されたとしても、各採用系列が大幅に拡張していればCIも大幅に上昇し、各採用系列が小幅に拡張しているならばCIも小幅に上昇するため、CIはDIでは計測できない景気変動の大きさを計測することができます。

(4) 山梨県景気動向指数の改訂

採用系列の入替え

景気動向指数の作成にあたっては、その採用系列が現在の景気の動きを十分に反映しているかどうか点検を行い、必要に応じて入替えを行っています。

山梨県では、平成28年4月分より採用系列の入替えを実施しました。

公表形態の移行

山梨県においては、平成23年12月分よりDI（試行版）の公表を開始し、平成25年11月分から試行版を外すとともに、CI一致指数を参考値として公表開始しました。

また、平成28年4月分より従来のCI一致指数に加え、CI先行指数及びCI遅行指数を参考値として併せて公表を開始しました。

公表時期

平成28年4月分より、公表時期を対象月の3か月後の月初めから翌々月末に変更しました。

次回の公表：平成28年10月分の公表は平成28年12月末の予定です。

次回より、CIを中心とした形態での公表を開始します

CI（先行指数・一致指数・遅行指数）の有用性等

- ・CIとはコンポジット・インデックスの略で、景気との連動性が高い複数の経済指標の前月に比べた変化量を、1つの指標に合成したものであり、国際的にも標準的な指標とされ、内閣府等でも作成されている。
- ・CIは景気の拡張または後退のテンポを表すとされており、景気の山の高さや谷の深さ、上昇や下降の勢いなどをつかむ一つの目安になると考えられている。
- ・一方で、DIは景気拡張（後退）の動きの各部門への広がり・波及度合いを把握するためのものであり、両者を併せて利用することが望ましいとされている。